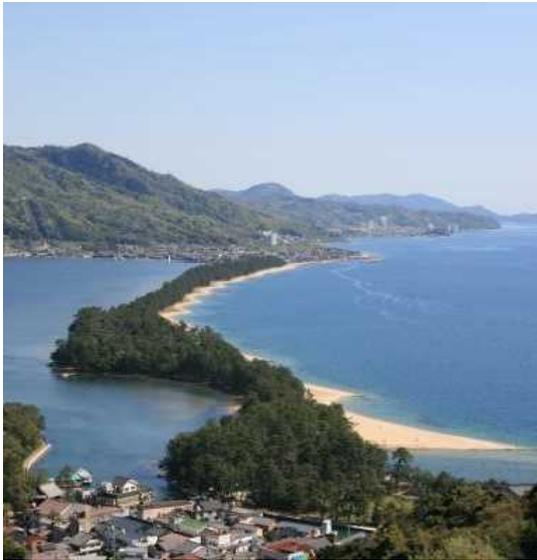


新宮津市総合計画骨子案

R2.8.20時点



国の特別名勝 日本三景「天橋立」



市章



市の木 くろまつ



市の花 みつばつツツジ

1

1 総合計画について

総合計画とは

総合計画は、**宮津市の目指すべき将来像を描く**とともに、その実現に向け、**長期的な展望により総合的かつ計画的なまちづくりのあり方を示す最上位の指針**としての役割を果たすものです。

宮津市では、計画期間を10年間として、これまで6つの総合計画を策定してきました。

平成23年の地方自治法の一部改正により、総合計画の法的な策定義務は廃止されましたが、宮津市の将来のあり方を示し、市民の皆さんと一緒に進むまちづくりの基本指針として必要と考えており、令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間とする新しい「宮津市総合計画」を策定することとしています。

これまでの総合計画

昭和33年度～昭和46年度	宮津市建設計画
昭和47年度～昭和56年度	宮津市振興計画
昭和57年度～平成2年度	第3次宮津市振興計画
平成3年度～平成12年度	第4次宮津市総合計画
平成13年度～平成22年度	第5次宮津市総合計画
平成23年度～令和2年度	みやづビジョン2011 ※現計画

2

総合計画と各計画の関係



2 現総合計画について

宮津市の基本政策「みやびビジョン2011」

- 宮津市における最上位計画（基本構想）
- H23～H32(R2)の10年間の計画

宮津市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- H27～R2の6年間について、人口の増加や仕事創出を目指して特に重点的に取組む政策を定めたものです。
- 宮津ビジョン2011の2つの重点戦略を積極的に推進していくための役割を担うもの(実施計画)として策定し、運用しています。

みやびビジョン2011の総括

- みやびビジョン2011は基本構想のみのため、実施計画である宮津市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、今夏、成果を総括します。



3 新総合計画策定の趣旨

【課題】

- ・ 少子高齢化や人口減少、人手不足
 - ・ 市民所得の低迷
 - ・ 地域経済の低迷
 - ・ 空地空家の増加
- 等様々な社会的、地域的な課題が顕在化

【世の中の流れ】

- ・ Society5.0の推進
- ・ SDGsの推進
- ・ 新型コロナウイルス感染症による社会全体の行動変容及び今後の地域社会・地域経済のあり方の変化



【対応するためには】

行政だけではなく、市民、各種団体、企業など地域を構成するすべての主体が知恵を絞り、力を合わせ、主体的なまちづくりの取組を進めることが重要

先進的なテクノロジーの活用や専門的な知識・技術を活用した新たなまちづくりの方策を考えることが必要



現総合計画「みやづビジョン2011」が令和2年度に計画期間が終了することから、社会経済情勢の変化など時代の潮流を見据えた本市の将来あるべき姿と進むべき方向の指針となる、**新たな総合計画を策定**

5

4 新総合計画の位置付けと策定の視点

計画の位置付け

本市の目指すべき将来像を描くとともに、その実現に向け、長期的な展望により総合的かつ計画的なまちづくりのあり方を示す最上位の指針としての役割を果たすものです。

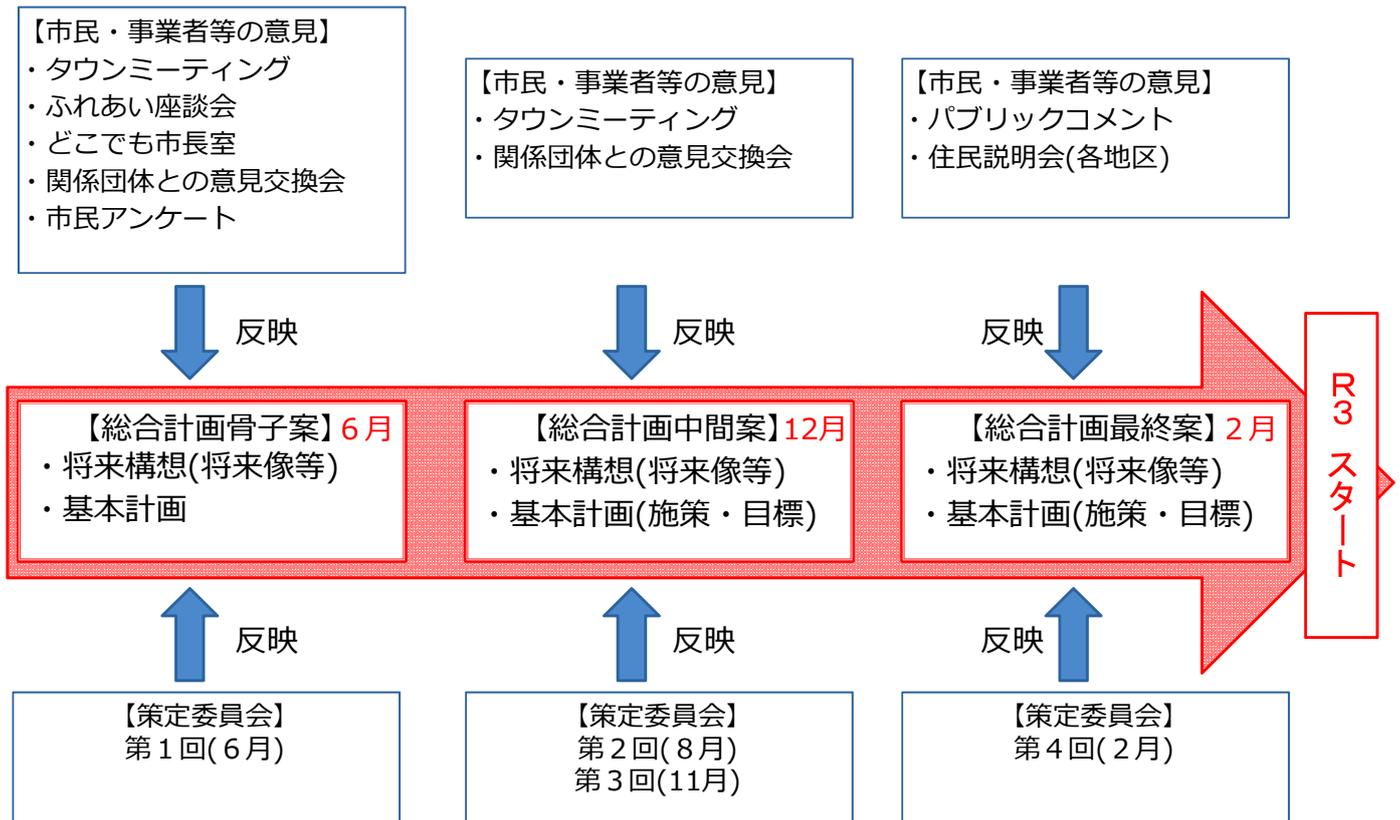
- 行政だけではなく、市民、各種団体、企業など地域を構成するすべての主体が力を合わせ、将来像の実現を目指す計画
- 具体性があり、体系化された、わかりやすいまちづくりの指針

策定の視点

- 市民と市の協働により、役割分担を明確にした計画づくり
-市民が参加した住民視点の計画づくり-
- 目標が明確で、成果が評価できる計画づくり
-総合計画が何を目指し、どれだけの事を達成していくかを明確にした計画づくり-
- 現在から20年後までを見据えた持続可能な計画づくり
-将来に負担をかけない計画づくり-
- 重点目標を明確化した計画づくり
-施策を身近に感じることができる計画づくり-

6

5 新総合計画の策定手法



7

6 新総合計画の構成と期間

将来構想

宮津市が目指す将来像とそれを実現するためのまちづくりの基本的な方向性を示すもので、基本計画、実施計画の基礎となるものです。

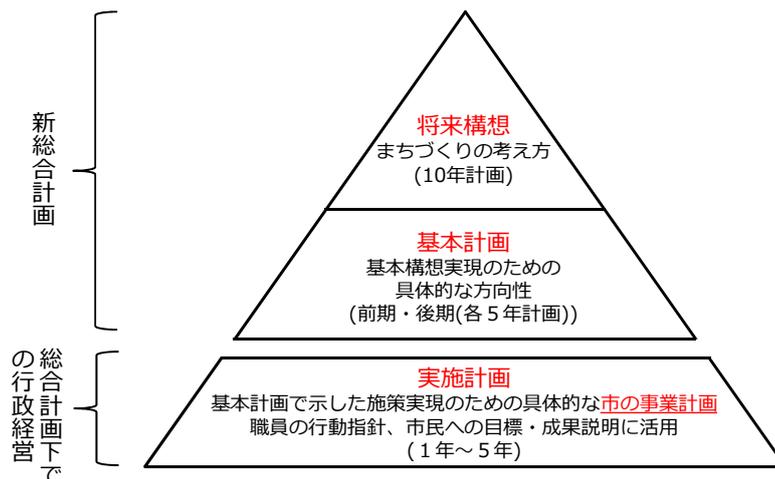
計画期間：令和3年度～令和12年度(10年間)

基本計画

将来構想に掲げる将来像の実現に向けて、まちづくりを総合的・計画的に推進するため必要となる施策を分野ごとに示すもので、社会経済情勢の変化や基本計画の実施状況を踏まえ、前期、後期に分けて策定します。

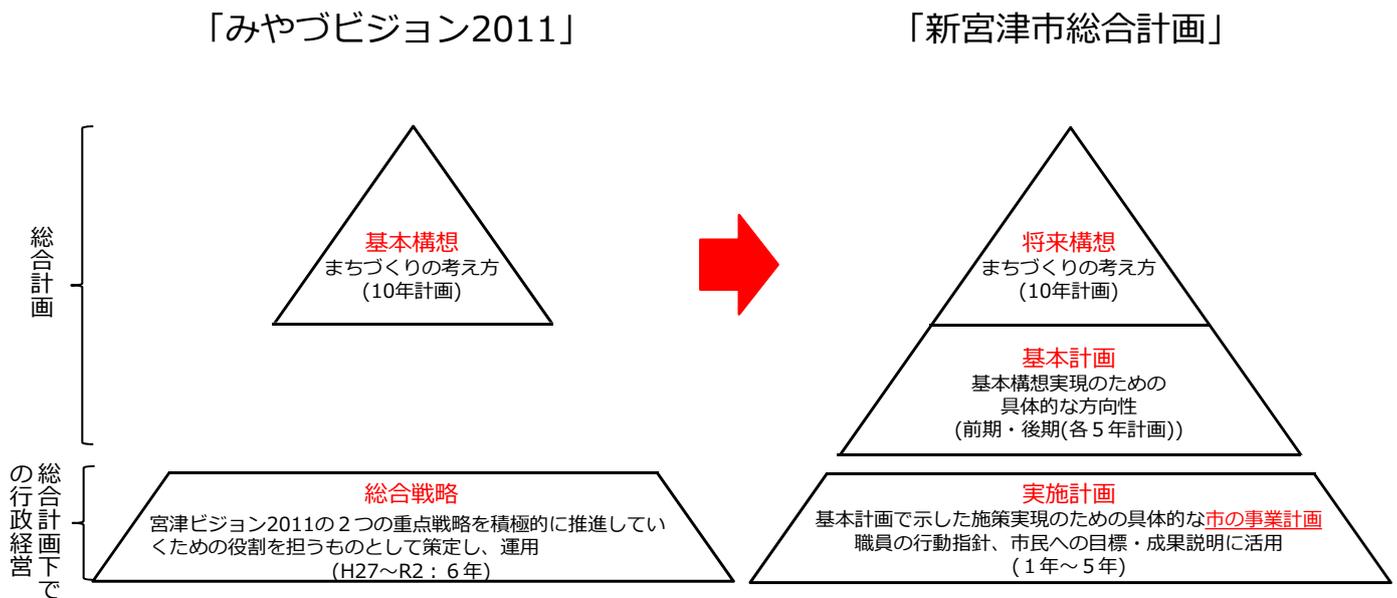
計画期間：前期 令和3年度～令和7年度(5年間)

後期 令和8年度～令和12年度(5年間)



8

7 現総合計画と新総合計画について



【相違点】

- 「みやづビジョン2011」は、**基本構想のみで構成**されており、実施計画として「宮津市まち・ひと・しごと創生戦略」を策定し、運用しています。
- 「新宮津市総合計画は」、**将来構想と基本計画の2部構成**とし、市の事業計画として実施計画を策定します。

9

8 将来構想

修正

少子高齢化、人口減少が進み、地域経済の低迷や厳しい財政運営が続く中、

宮津市で暮らし続け、活気ある宮津を実現するためには

- ①宮津市で暮らし続けられるよう、人口減少に対応した地域や行政とすること
- ②地域経済や地域の活力に直結する人口減少を緩やかにすること

が必要です。



そのために、

- ・暮らしに必要なサービスの維持に向けて、今まで以上に市民と行政が共に考え、行動するまち
- ・活発な民間投資や充実した雇用等により所得が向上し、地域経済が活性化したまち
- ・市内産業の人手不足や地域コミュニティの担い手不足の解消に向けて、先端技術の積極的な活用や性別や年齢に関わらず全ての人々が様々な場面で生涯活躍できる地域
- ・市内消費額の増加につながる「交流人口」や地域の担い手となる「関係人口」の増加したまち
- ・人口減少の緩和につながる市内外の人、特に若者世代が住みたい、住み続けたいと思うまち
- ・市民が住み続けたいと思う街は市外の人々が住みたいと思う街につながることから、子育て支援・教育の充実、防災・減災対策の推進、地域コミュニティの成熟、高齢になっても安心して暮らせる等、ソフト・ハードの両面から様々な世代が暮らしやすいまち
- ・地域で活躍し愛着がある人のほうが定住意向が強くなる傾向があることから、子どもの頃から地域への愛着(郷土愛)が育まれるまち

の実現を目指します。

10

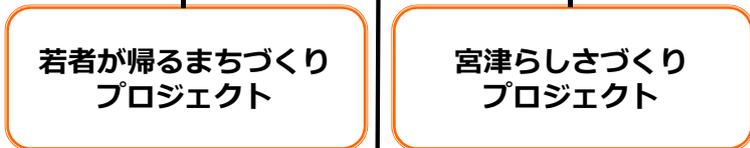
【宮津市の目指す将来像】

(案) 地域と共に創り・応援する、みんなが活躍できるまち みやづ
 地域と共に創る 活躍できるまち みやづ
 地域と共に創る 生き生きと暮らせるまち みやづ
 みんながお互いに応援しあい、活躍するまち みやづ
 みんなが取り組み みんなが応援する みんなで創るまち みやづ

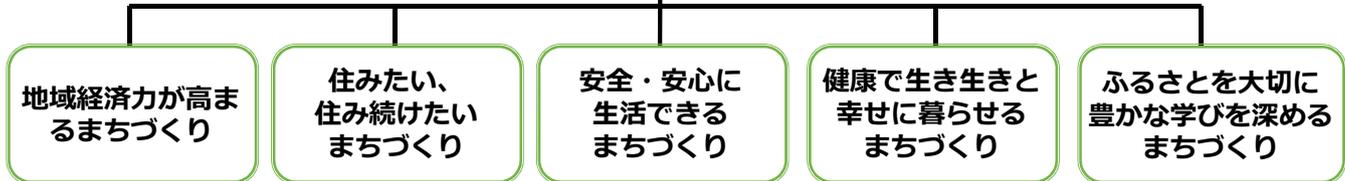
【将来像の実現に向けた5つの視点】



【重点プロジェクト】

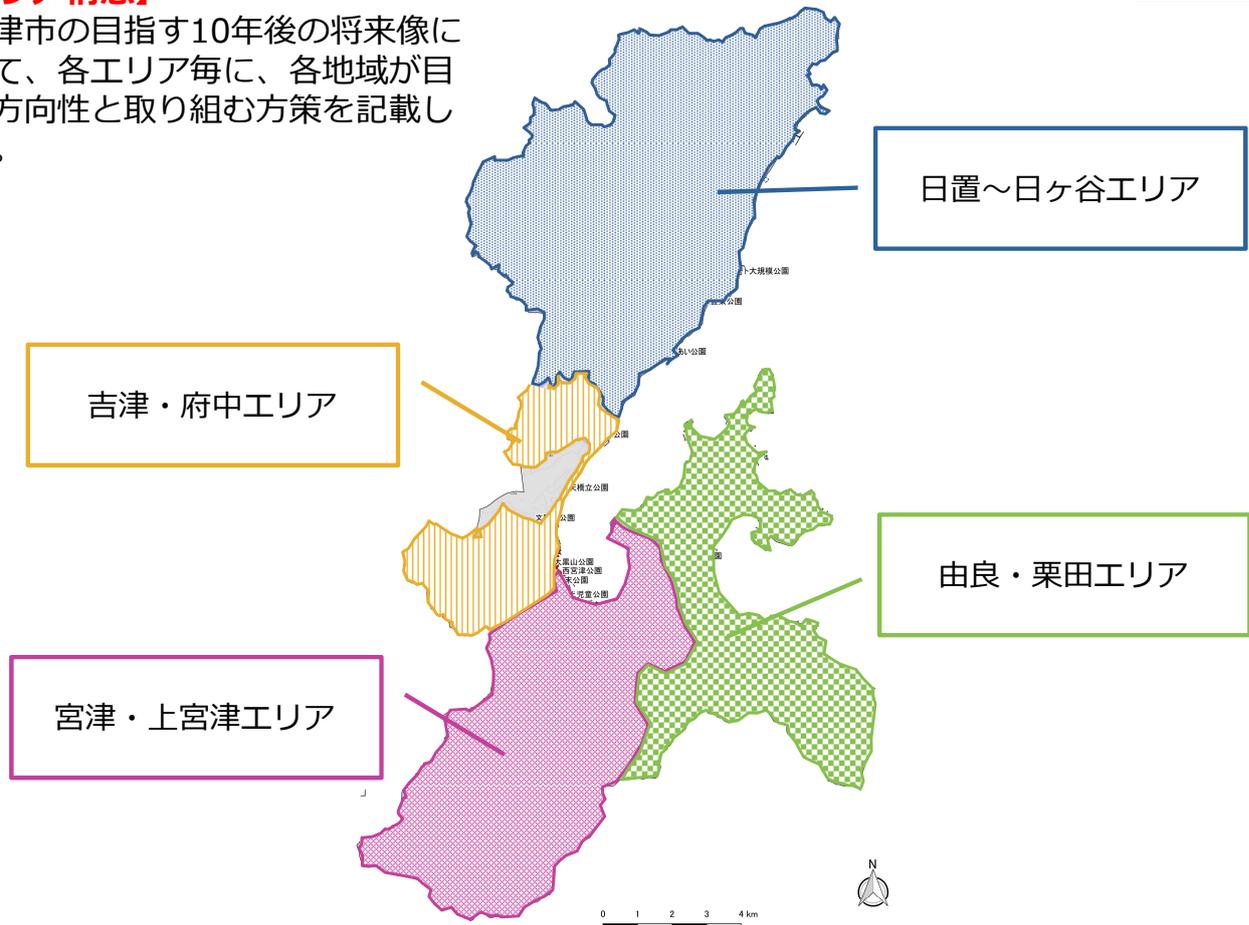


【将来像の実現に向けた5つの柱】



【エリア構想】

宮津市の目指す10年後の将来像に向けて、各エリア毎に、各地域が目指す方向性と取り組む方策を記載します。



9 将来構想・基本計画の5つの視点

1 市民協働

将来像の実現は、行政だけでできるものではありません。市民、各種団体、企業など地域を構成する全ての主体が知恵を絞り、力を合わせ、主体的なまちづくりの取組を実現することが重要です。

2 Society 5.0

ICTやIoT、AI等の先端技術は、これからの社会において経済発展と社会的課題の解決に資するツールであり、様々な分野での活用が期待されています。

このような中、宮津市においてもICT等を施策に取り込んでいくことが必要となってきています。

3 SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、「誰一人取り残さない」という「包摂性」やあらゆるステークホルダーが役割を担う「参画型」などを主要原則としており、経済や環境、貧困対策等様々な分野で取り組まれています。

このような中、宮津市においてもSDGsに合致する取組をしていくことが重要です。

4 アフターコロナ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日本だけでなく世界中で経済や社会のあり方が大きく変化しており、新型コロナウイルス感染症発生前の社会には戻らないであろうと言われています。

このような中、宮津市においても新型コロナウイルス感染症収束後(アフターコロナ)の社会を予測して対応していくことが必要です。

5 健全な行政運営

将来像の実現に向けては、中長期的に安定した行財政運営が必須となります。行財政運営指針や公共施設再編方針等に基づき、経営視点に立った効率的・有効的な行政経営を進めます。

13

6 基本計画

修正

2つの重点プロジェクトを設定するとともに、将来構想で定めた「将来像の実現に向けた5つの柱」をテーマ別戦略として位置付け、プロジェクト、戦略毎に実施する施策と達成すべき目標を設定します。

【重点プロジェクト】

1 若者が帰るまちづくりプロジェクト

市外に出た若者が宮津に戻ってきたいと思えるよう、郷土愛の醸成や、地域で活躍できる環境づくり、暮らしやすいまちづくりを進めます。

2 宮津らしさづくりプロジェクト

宮津にある誇れる地域資源(ヒト・モノ・コト)を「みんなの宝」として理解を深め、地域内外へ発信することで、地域に愛着を持って暮らせるまちづくり、市内外から選ばれるまちづくりを進めます。

【テーマ別戦略】

1 地域経済力が高まるまちづくり

【分野】・観光振興 ・商工業振興 ・農林水産業振興 ・IT活用 ・都市景観、景観まちづくり
・社会基盤施設活用

2 住みたい、住み続けたいまちづくり

【分野】・子育て支援 ・定住促進 ・関係人口 ・空家対策 ・男女共同参画 ・情報発信
・地域コミュニティ、市民協働

3 安全・安心に生活できるまちづくり

【分野】・社会基盤、防災減災対策 ・防犯、交通安全 ・環境 ・公共交通

4 健康で生き生きと幸せに暮らせるまちづくり

【分野】・地域福祉 ・障害福祉 ・高齢者福祉 ・健康、医療 ・福祉医療人材育成

5 ふるさとを大切に豊かな学びを深めるまちづくり

【分野】・社会教育 ・学校教育 ・スポーツ振興、文化振興 ・文化財保存、活用
・人権教育、啓発 ・人財づくり

14

市民アンケートから分かる 宮津市 10 のこと

10 POINTS

ANSWER 01



宮津のイメージカラーは？

青色 (45.7%)

水色 (25.0%)

緑色 (11.4%)

ANSWER 02



市民の SNS 利用率は？

85% が利用している

全ての年代で、LINE の利用率が高い。若年層では Twitter、中高年層では、Facebook の利用率が高い。

ANSWER 03



宮津に住み続けたいですか？

61% が住み続けたいと
思っている

宮津に愛着・誇りがあると答えた方では、76%に増加します。

ANSWER 04



宮津に住み続けたい理由は？

住み慣れているから
(59.3%)

自然環境が豊かだから (48.4%)

食べものが新鮮でおいしいから
(39.0%)

ANSWER 05

宮津に愛着・誇りをもっていますか？

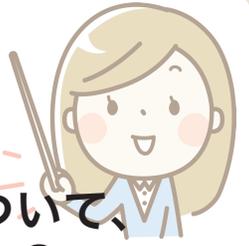


73% が愛着・誇りをもっている

地域活動に参加したことがある(参加したいと思う)と答えた方では、75%に増加します。

ANSWER 06

宮津に住むことについて、人に勧めたいですか？



52% が人に勧めたいと思っている

宮津に愛着・誇りがあると答えた方では、68%に増加します。

ANSWER 07



人にお勧めしたいと思うものは？

海が近く環境に恵まれていること (76.4%)

おいしい海産物 (60.8%)

のどかな雰囲気 (56.4%)

ANSWER 08

広報みやづの読者率は？



83% が読んでいる
読みたくなるためには？

役立つ情報の充実 (49.3%)

長い文章より、短い文章で

分かりやすく (32.7%)

写真、イラストを多く使用 (22.4%)

ANSWER 09



日常の情報・話題をどのようにして知っている？

10歳代：テレビ

20歳代：インターネット、SNS

30~40歳代：インターネット

50歳~60歳代：テレビ

70歳以上：新聞

ANSWER 10

宮津市からの情報をどのようにして知っている？

広報みやづ (80.1%)

みやづ情報メール (35.9%)

議会だより (31.4%)